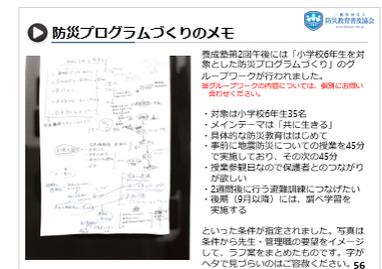


本資料について

- 本資料は2016年度中越防災安全推進機構主催「防災教育コーディネーター養成塾」第2回で使用した講義スライドを公開用に編集したものです。
- 本資料に記載の内容は、筆者の個人的な見解であり、組織の意見を代表するものではありません。
- 本資料に記載の内容の転載、再配布は使用者の責任において行ってください。
- 講義スライドの内容を補足するための「**講義録追補版**」も公開しています。講義スライドだけでは内容を理解することが難しいため、講義メモも併せてダウンロードしてご確認いただくことをお勧めします。
- その他、ご不明な点やご要望、詳細な解説が必要な場合は『防災教育普及協会』にお問い合わせください。

▶ 本資料について

- 講義部分は『防災教育プログラム開発の基礎知識』として、過去に行った講義の内容を中心に、アイスブレイク教材等を追加しつつ再構成しています。
- 防災教育コーディネーター養成塾第2回午後に行われた「防災学習プログラムづくり」のワークショップに筆者も参加しました。コーディネーターとして意識すること、先生や管理職の要望を受けてプログラムをつくる時のコツ、実際に筆者がプログラム案を作成する時に使ったメモや提案書を掲載しています。すぐにご覧になりたい方はこちら→



2017年2月26日(日)
防災教育コーディネーター養成塾 第2回



地域における防災教育の実践のコツ ～プログラム開発手法の基礎知識～

宮崎賢哉(社会福祉士・ボランティアコーディネーター)

一般社団法人防災教育普及協会 事務局長

第3回国連防災世界会議防災教育日本連絡会 事務局次長(兼務)

災害救援ボランティア推進委員会 主任(兼務)

効果的な防災訓練と防災啓発(ShakeOut)提省会議 事務局次長(兼務)

▶ 話題：学習指導要領改定案のポイント

- 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「**社会に開かれた教育課程**」を重視。
- 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視**する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、**知識の理解の質をさらに高め**、確かな学力を育成。
- 先行する特別教科化など道徳教育の充実や**体験活動の重視**、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

▶ 話題：学習指導要領改定案のポイント

- 全ての教科等を①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かい合う力、人間性等の3つの柱で再整理。

▶ 『何のために学ぶのか？』

- 「アクティブ・ラーニング」の表現は記載されず「主体的・対話的で深い学び」に。
 - ▶ 定義が不明確な用語の使用を避ける
 - ▶ 従前の学習方法を踏襲しながら**改善**を促す

本日の講義内容

- 本日の学習テーマの確認
- 防災教育教材を使ったアイスブレイク
- 学校、家庭、地域における防災教育実践のコツ
～地域における防災教育の実践に関する手引き～
- プログラム開発手法の基礎知識
- 効果的な防災教育教材の活用、教材紹介
- 地域における防災教育実践スタートアップ例
- 防災ゲームDay2017inそなエリア東京(7/2)

▶ 養成塾 到達目標の確認

- **学校教育に対しての理解と知識**を身につけ、さまざまな関係者と**信頼関係を築きながら**、お互いの**立場が尊重**でき、子どもたちの**「生きる力」を育む**ことに対して、自分の**可能な範囲でできること**を考え、積極的に関わる**意欲を持つ**人材。

(になれたと皆さん自身が思えること)

学習テーマの確認

以下の点について学ぶことを意識してください。

- “**自分の可能な範囲**”の知り方、気付き方
- “**関係者と信頼関係を築く**”ための心構え
- “**相手の立場を尊重した**”防災教育実践の考え方

- プログラム開発手法の基礎知識
- 代表的な防災教育教材、プログラム



▶ □自分の可能な範囲の知り方、気づき方

シンプルなワークショップ
で自分の「知識・技能」を
確認しよう。

アイスブレイク解説 1

NPO法人高齢者住まいる研究会（防災教育チャレンジプラン実践団体）による教材『まちのBOSAIマスター』を使ってアイスブレイクを行います。

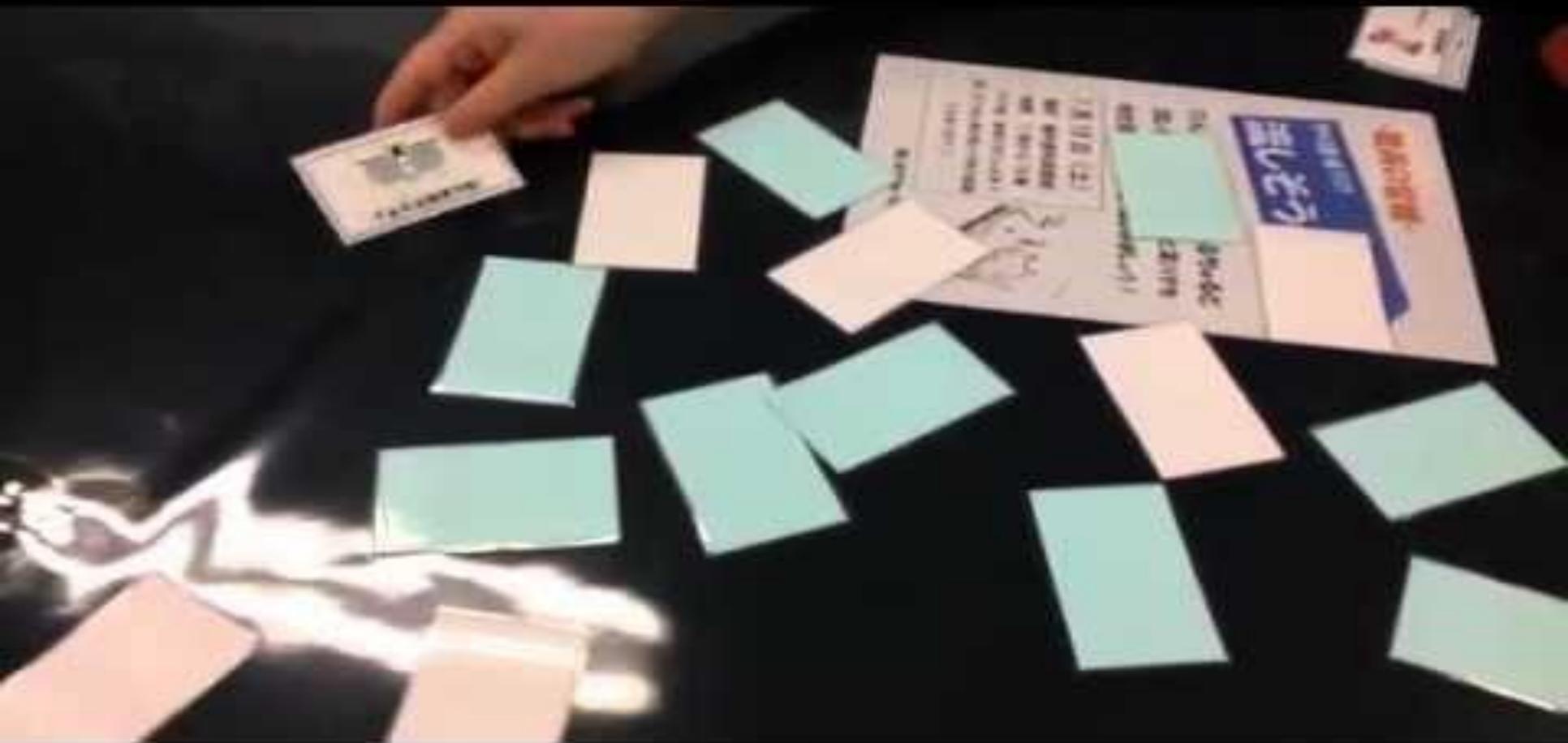
- ① 6人程度の班を作り、自己紹介してください。
- ② カードを裏返して机にバラバラに置きます。
- ③ 今日に一番誕生日が近い人を探し、その人から時計回りに「神経衰弱」をします。当たったらもう一度挑戦できます。失敗したら次の人へ！
- ④ **「災害カード」が出たら場のカードをみんなでシャッフルし、次の人へ！**
- ⑤ 時間になるか全て終わるまで繰り返します。

▶ アイスブレイクのようす





(参考) まちのBOSAIマスター



アイスブレイク解説 2

【コーディネーター養成塾特別ルール！】

- ・ 神経衰弱で当たった人は、カードの意味、必要性を“小学校6年生が分かるよう簡潔に”説明します。班の人からOKが出れば合格です！誰かからNGが出たり、分からない場合は、元に戻し次の人へ。
- ・ 誰も分からないカードは脇に置いてください。
- ・ 全て終わってしまったら、一番カードをたくさん当てた人（同数の場合はじゃんけんなどで）を決めてください。その後は指定時間までフリートークしてください。

アイスブレイク解説3

【防災教材としてのポイント】

- 神経衰弱というシンプルなルールは誰もが分かりやすく、説明や理解の手間が省けます。
- カードをめくる課程で、用語や要点を繰り返し確認するので、楽しみながら復習または予習できます。
- 「災害カード」でシャッフルされるので、記憶力が良い人だけが勝ち続けることもなく、みんなが楽しめます。
- 頻繁に災害カードを引くと、班の中で何とかカードを合わせようと「助け合い」が生まれることがあります。
- 「災害は繰り返し起きる」、「起きる頻度や対応力には差がある」といった自然災害の特徴も体験的に理解できます。
- カードの内容を変えれば、どんな学習にも使えます。

▶ シンプル(≠イージー)・イズ・ベスト

プログラム開発で陥るワナ

知識や経験がたくさんあると「あれもこれも」となってしまうがち。一度に学べる内容は限界があります。1つのテーマ、1つの目標を意識して。



DROP!



COVER!



HOLD ON!



▶ □ 自分の可能な範囲の知り方、気づき方

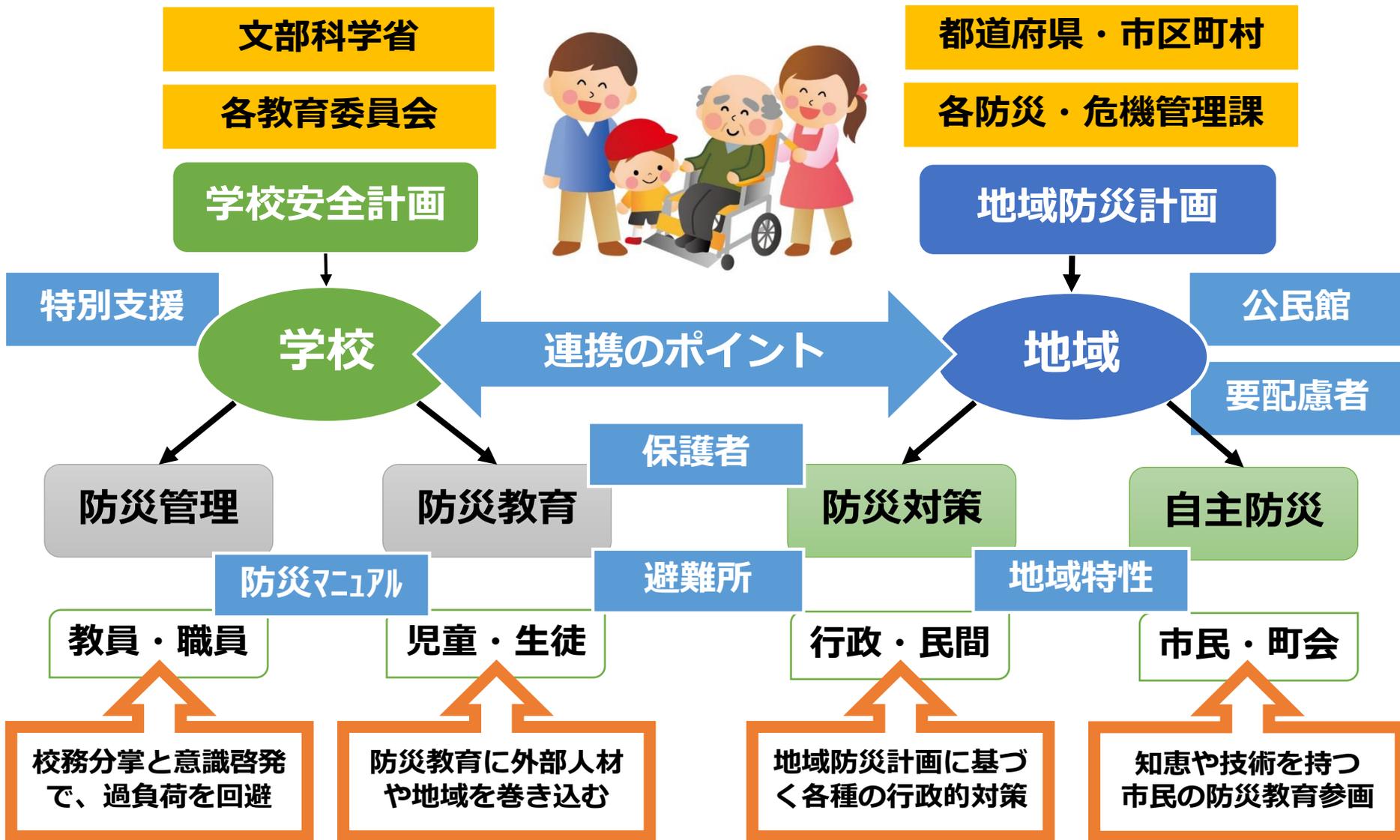
「自分の知識や経験」は大事ですが、防災教育の対象がその全てを受け入れられる訳ではありません。

「自分の可能な範囲」とは「知識や経験の多さ」ではなく、「知識や経験の中から、対象に必要なものを探し出す選択肢」のことです。

 □関係者との信頼関係を築く心構え

**学校・家庭・地域における
防災教育のあり方を理解し
状況に応じた適切な関わり
方を考えよう。**

学校,家庭,地域で「助け合う」防災教育





改めて考える防災教育の必要性





▶ 東京都教育庁(2011)「助け合う防災教育」



主体性、課題意識、地域連携の効果

- 調査の対象となったのは当時、釜石東中学校の2年生生徒11名
- 震災前の防災教育で印象に残っているものをインタビューすると

- (1) 学習のまとめ「てんでんこ
レンジャーDVD作成」11名
- (2) 防災ボランティアースト 8名

と回答。

- 『学習の主体性、課題意識の向上、学外や社会への展開』が含まれる内容が印象に残っている。
- 「自分たち自身で考える機会があったから身についていた」

記事画像
削除

▶ 手法の例と注意事項

手法に囚われすぎないように

以下の手法を使えば「主体的・対話的で深い学び」につながるとは限りません。テーマや伝え方、説明の方法、成果確認、改善を常に意識します。

グループ学習型

班・チームに分かれて行う、一般的によく行われている学習方法

討論型

特定の意見・主張に寄り、ディスカッションを通じて学びを深める

プレゼン テーション型

明確な課題(テーマ)に対するアプローチ、伝え方の違いから学ぶ

体験学習型

施設やイベントでの体験から様々な気づきを得て学びにつなげる

問題発見解決型

課題やテーマ設定の発見から入り、解決策を考える（実行する）

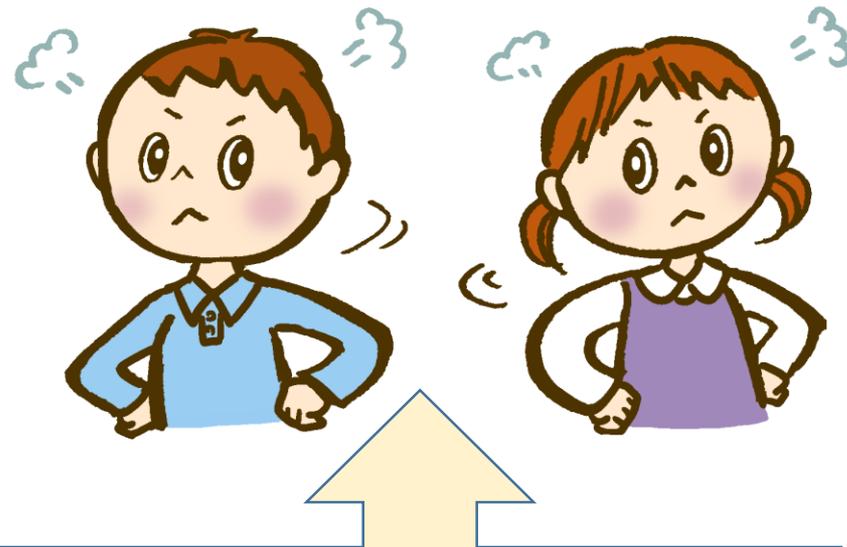
▶ アクティブ・ラーニングの課題

どのように“学び”を引き出すか

「主体的・対話的で深い学び」を促す指導法を指導者がどのように身につけていくか、多様性や評価方法をどう児童生徒に伝えるかが課題に。



- ・ 要点を押さえた、体系的で効率的な教育研修の実施
- ・ 授業方法の研究実践機会の提供



- ・ 自主性、多様性の尊重
- ・ 学修目標やルールの明確化
- ・ 評価、判断基準の明示

☑関係者との信頼関係を築く心構え

学校、家庭、地域、企業をはじめ防災教育関係者の立場は様々です。理想論では理解や協力を得られないこともあります。

コーディネーターが関係者との信頼関係を築くには、自分の意見や考え、やり方を「押し付ける」のではなく、状況

（テーマ、実施環境、対象、予算など）、要望に応じて適切な手法を選択する、講師を紹介するといった配慮が必要です。



□ 相手の立場を尊重した防災教育実践

**効果的で継続的な防災教育
実践に必要な要素を理解し
常にチェックしよう。**

地域における防災教育実践の五箇条

- 1. 地域の特性や問題点、過去の被災経験を
知ること。**
- 2. まずは行動し身をもって体験すること。**
- 3. 身の丈にあった取り組みとすること。**
- 4. 様々な立場の関係者と積極的に交流す
ること。**
- 5. 明るく、楽しく、気軽に実行すること。**



▶ 地域における防災教育実践のポイント

段階	要素	防災教育を実践する上で重要なポイント
準備段階	人(担い手)	① 担い手を決める
	人(つなぎ手)	② 地域のキーパーソンと連携する
	運営(組織)	③ 取組主体を組織化する
	運営(体制)	④ 活動範囲を無理に広げない
	場(時間)	⑤ 準備時間を確保する
	場(場所)	⑥ 活動場所を確保する
	お金(資金)	⑦ 活動資金を確保する
	ネタ(知識)	⑧ 知識や情報を収集する
	ネタ(教材)	⑨ 目的に応じた教材(プログラム)を作成する
実行段階	人(つなぎ手)	⑩ 経験豊富なアドバイザーを確保する
	運営(体制)	⑪ 地域の理解を得て関係機関と連携する
	場(時間)	⑫ 活動時間を確保する
	お金(経費)	⑬ 経費を低減させる
	コツ(工夫)	⑭ 他の実践団体と交流する
継続段階	人(担い手)	⑮ 後任者を育成する
	ネタ(教材)	⑯ 知恵や経験を形式知化する
	コツ(工夫)	⑰ 成果を外部に発表する
	運営、ネタ、コツ	⑱ 活動内容を継続的に見直す

検索 [地域における防災教育の実践に関する手引き 概要]

☑相手の立場を尊重した防災教育実践

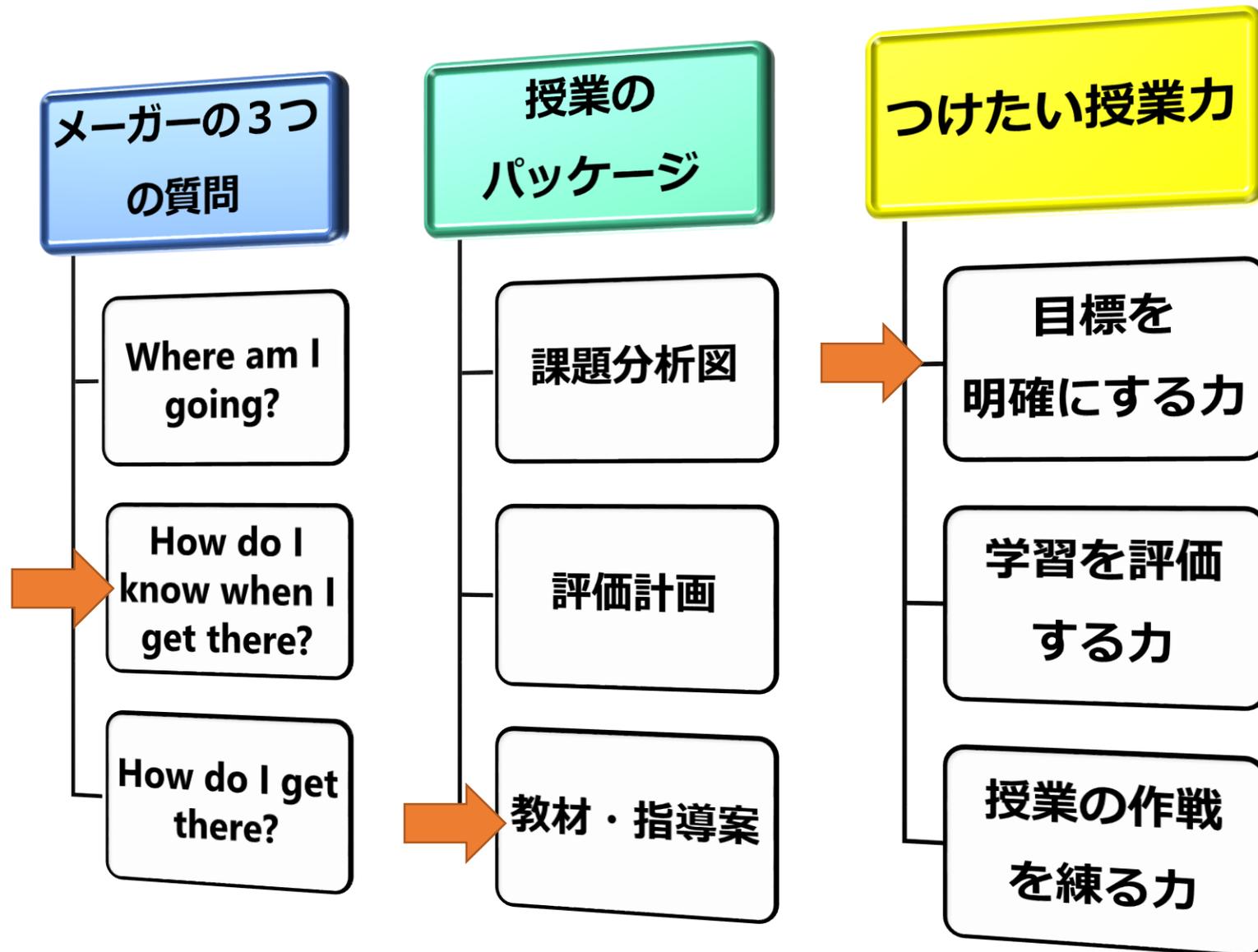
相手の立場を尊重するためには、相手のことをよく知らなければなりません。

「誰が担い手か」、「キーパーソンは」、「予算・経費は」、「時間は、場所は」、「地域特性は」など、実践で重要なポイントを意識してチェックしておく、相手に「自分たちのことを考えてくれている」と思ってもらうことができます。

プログラム開発手法の基礎知識

**「目標を明確にする力」を
身につけ、個々の防災教育
実践の質を高めよう。**

▶ プログラム開発手法の基礎知識



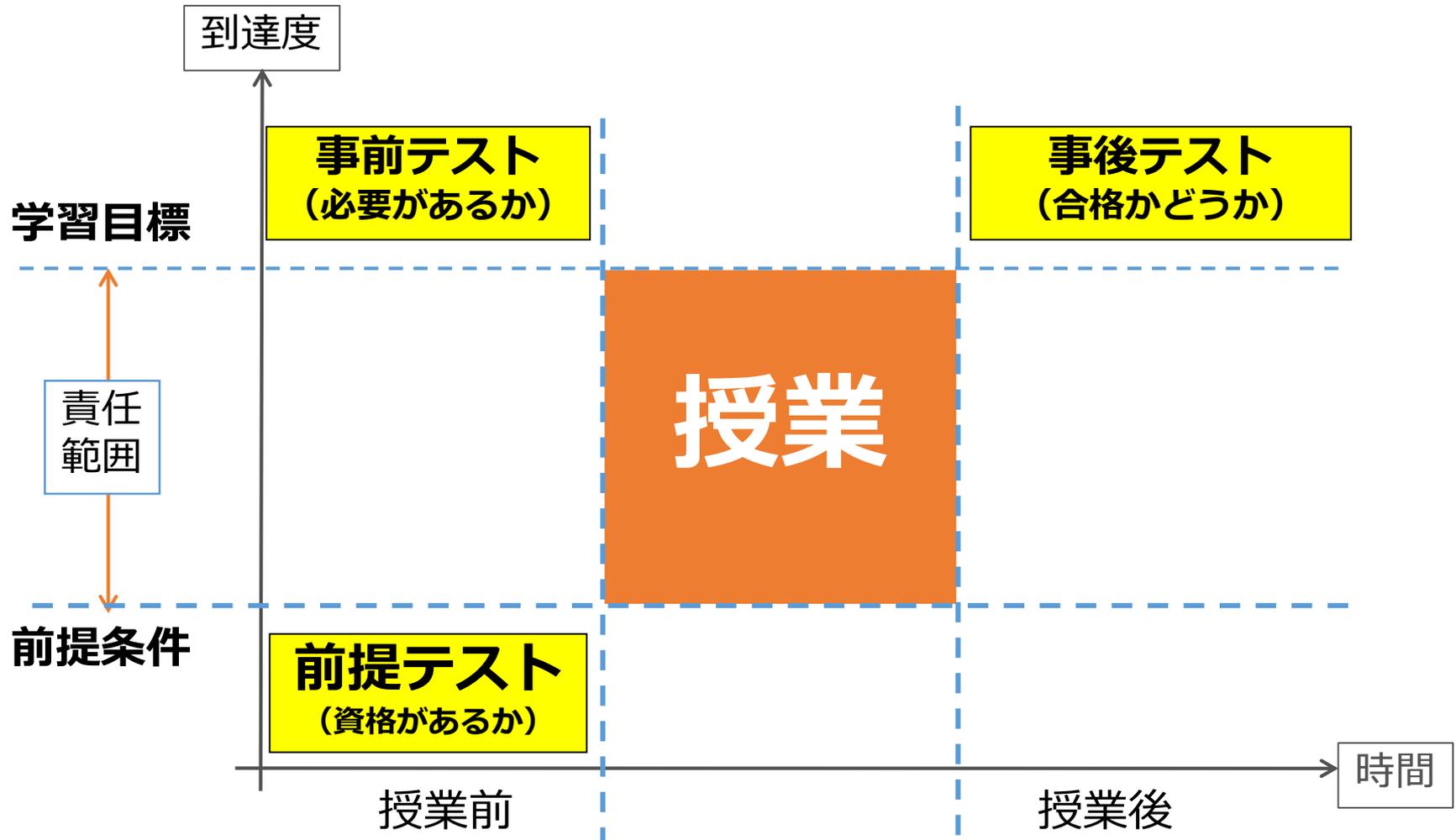
▶ 学習成果と目標行動の関係

	学習成果	具体例	目標行動
言語情報	名称や単語などの指定されたものを覚える	気象情報や避難情報の名称、意味を説明できる	言う, 書く
運動技能	体の一部や全体を使う動作や行動	心肺蘇生法やAEDを正しく実行できる	行う, 実演する
知的技能	ルールや原理, 概念を理解して新しい問題に適用する	警報の意味を正しく理解し、状況に応じて適切な安全行動を選択できる	区別する, 選ぶ, 分類する, 例を挙げる, つくりだす
認知的方略	学び方や考え方を意識して工夫・改善する	災害危険箇所を確認するためにまち歩きをしたりハザードマップを見る	採用する
態度	個人の選択や行動を方向づける気持ち	防災講話を聞いて、家庭や学校で、防災活動に取り組む意欲を示す	選ぶ, ~しようとする, ~しないようにする

目標設定のために把握すべき項目

前提条件	授業において学習目標を達成するために、学習者があらかじめ身につけておくべきことは何か。
関連知識	学習者がこれから学習する内容や関連する内容について、どの程度知っている（経験している）のか。
学習意欲	授業に対する学習者の学習意欲はどの程度か。興味はあるか、やりがいはあるか、自信を持てるかなど。
学業/知的レベル	学習者の学校・授業における学業成績や、防災教育・訓練・イベントに求めるレベル(専門的⇔分かりやすさ)など。
学習方法の好み	講演形式、グループ学習、実技訓練などの好み、利用するメディアの好みなど。これまでにどれが成功したのか。
特徴	学校、地域の全体的な特徴（雰囲気や、他と特に異なる点など）、学習(実践)進度のばらつき度合いなど。

▶ 防災教育（授業）の成果確認



▶ 観点別評価の整理と授業の進め方

学習評価の見直しで変わる授業

「主体的に学習に取り組む態度」を、どのように学習目標、指導目標、防災教育の中に取り入れていくか。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
技能
知識・理解



知識・技能
思考・判断・表現
主体的・対話的で
深い学び

目指す授業の在り方（中央教育審議会）

- ① 問題発見・課題解決を念頭に置いた学びが実現できているか。
- ② 他者との協働などを通じて対話的な学びが実現できているか。
- ③ 自分の学習活動を振り返り、次につなげる主体的な学びが実現できているか。等

▶ 数値化できないものを評価するには

目標と評価はセットで考える

学習指導要領等では「教師の裁量」は最大限認められる代わりに「どうやるか」より「何のために＝目標を明確にする力」と評価が重要になる

観点別評価の手法例

評価＝授業実践を含め、日常的に行いフィードバックすること
評定＝テスト等の結果を基準に従って点数をつけること

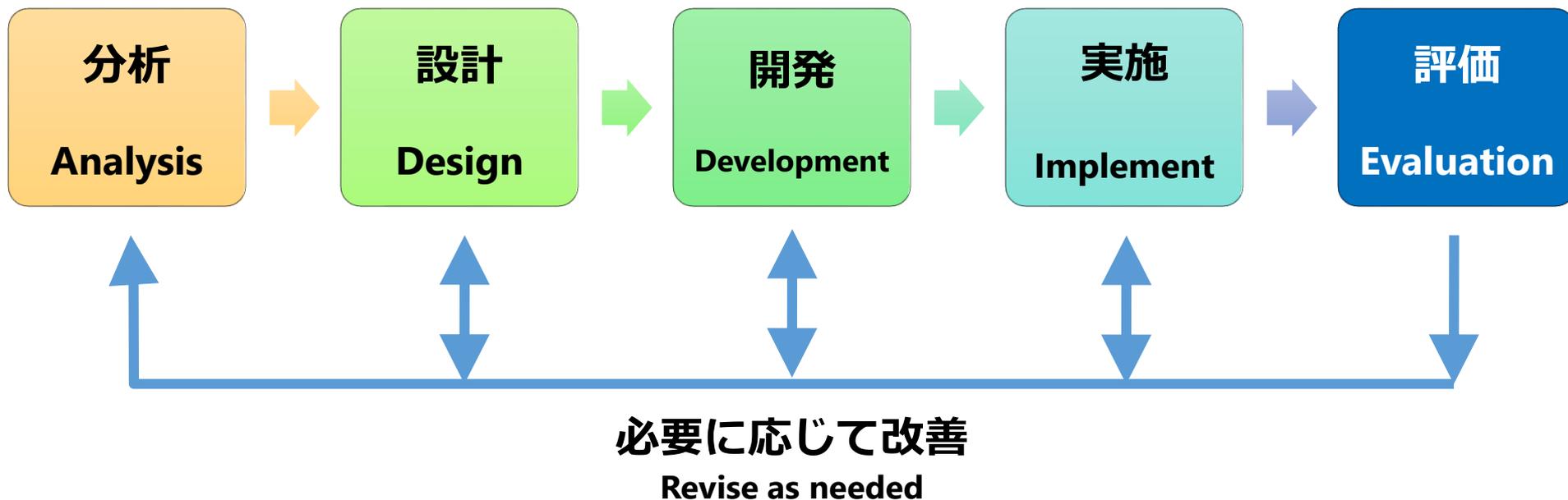
単元毎に各観
点をABCの3
段階で評価

単元毎のABC
を積み上げ、
得点化

ABCの総数(得
点)平均値から
5段階評定

大西俊宏「高等学校における観点別評価について」より作成
<http://www.math.ryukoku.ac.jp/~t-onishi/sj250211.pdf>

▶ 授業改善に役立つ「ADDIEモデル」



防災教育だけでなく、防火防災計画、避難所運営マニュアル、地域(地区)防災計画等の策定・検証に有効な考え方です

▶ 筆者の防災教育実践「3種の神器」

プログラムシート



授業計画
目標設定
改善方法

授業パッケージ制作の
授業改善のチェックリスト

氏名1【 】氏名2【 】氏名3【 】

1. 授業テーマ

項目	チェック
1: 発問・説明・指示の役割の違いの区別	YES - NO - 未該当
2: 黒板への板書、学習者のノート削りのイメージ化	YES - NO - 未該当
3: どんな学習者にどんな指導・支援をするかを考えた机間指導	YES - NO - 未該当
4: 子どもの話す・聞くスキルを考えた学習活動を構成 (具体的な工夫点)	YES - NO - 未該当
5: 学習者の注意を引く導入や教材提示の工夫 (Attention)	YES - NO - 未該当
6: 学習者が身近に感じ、やりがいを惹く課題の工夫 (Relevance)	YES - NO - 未該当
7: 学習者が自信をもてる発問やフィードバックの工夫 (Confidence)	YES - NO - 未該当
8: 学習者が満足感を得られる場面の設定や評価の工夫 (Satisfaction) (具体的な工夫点)	YES - NO - 未該当
9: ペア活動を取り入れる際の学び合いが成立するための工夫	YES - NO - 未該当
10: グループ活動を取り入れる際の役割分担や進行の仕方の工夫	YES - NO - 未該当
11: クラス全体の話し合いを設定する際のルールやまとめ方の工夫	YES - NO - 未該当
12: ワークシート上の指示、意見の整理、振り返りを促す道具の工夫 (具体的な工夫点)	YES - NO - 未該当
13: 授業の魅力を高める！CT活用 (興味を引くコンテンツの提示)	YES - NO - 未該当
14: 指導効率を高める！CT活用 (時間短縮、指示の明確化)	YES - NO - 未該当
15: 学習効果を高める！CT活用 (思考を深める、定着を回る)	YES - NO - 未該当
16: 情報活用能力 (収集・構築・発信) や情報モラルを高める場の設定 (具体的な工夫点)	YES - NO - 未該当

授業パッケージ

学習指導案 & 振り返りシート

防災学習指導案 No. 2

単元 避難訓練に合わせた防災グッズを覚えよう！

目標 自分や家族の環境に合った防災グッズの必要量を知り、適切な量を選び分けられること。

評価 自分の学習によって必要な防災グッズについて回答することができる。

学習活動

ワークシートを用いて避難訓練の「指導」(発問・指示・板書)において系統的に必要なと思われる防災グッズを提示し、グループで話し合う。その後、各々の学習環境に合った必要と思われる防災グッズを選び分け、適切な量を選び学習させよう。

単元の概観	時間	学習内容・学習活動	支援(○)、留意点(※)、評価(☆)
導入	5分	「災害によって災害やライフラインに影響が与えられる」という前提を踏まえ、「1-1避難訓練、電気が不通を想定する」という前提を踏まえ、「1-2防災グッズの活用」について話し合う。	この単元の仕方については学習者のニーズを踏まえ、必要に応じて調整する。
	25分	グループで話し合う。自分や家族の環境に合った必要と思われる防災グッズを選び分け、適切な量を選び学習させよう。	この単元の仕方については学習者のニーズを踏まえ、必要に応じて調整する。

まとめ

導入・展開
まとめ
成果確認

何のために
どんな条件で
何ができるか

訓練前後等の短時間防災教育計画例(神奈川県内沿岸部市町村にて作成・加筆)

	低学年	中学年	高学年	中学校
災害知識	身の守り方を知る	自然環境の素晴らしさと、災害の関係を知る		日本列島の特徴、自然の恩恵、災害とのつながりについて知る
	<input type="checkbox"/> 非常ベル,警報音を知る <input type="checkbox"/> 非常口等の誘導経路を知る	<input type="checkbox"/> 地域の過去の災害を知る <input type="checkbox"/> ハザードマップを確認する	<input type="checkbox"/> 日本の過去の災害を知る <input type="checkbox"/> 今後、想定される災害を知る	
		<input type="checkbox"/> 防災無線の役割を知る <input type="checkbox"/> 防災関係標識を知る	<input type="checkbox"/> 地震、津波、風水害のメカニズムを知る <input type="checkbox"/> 緊急地震速報や津波警報のメカニズムを知る <input type="checkbox"/> 防災関係の標識が地域でどこにあるかを知る	
安全行動	安全に避難できる		必要に応じて応急処置(応急手当等)ができる	
	災害時はまず大人に助けを求められる	必要に応じて119番、110番通報ができる		初期消火,心肺蘇生法,AED操作ができる
	<input type="checkbox"/> 安全な避難路を知る <input type="checkbox"/> 警報発令時の安全行動 <input type="checkbox"/> 非常口,経路を確認する	<input type="checkbox"/> 学内外で、防災無線や緊急地震速報、津波警報発令時に安全行動をとる <input type="checkbox"/> ハザードマップに基づき安全な場所へ避難する	<input type="checkbox"/> 周りに声かけするなど、避難を促す	
	地震発生時の安全行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を身に付ける			
防災意識	地域の安全・安心に関心をもつ			
	自宅～学校の安全・安心	家庭・地域の安全・安心		地域の一員として貢献
	<input type="checkbox"/> 災害時の安全、安心を意識して通学する	<input type="checkbox"/> 非常持出品を備える <input type="checkbox"/> 防災マップを確認 <input type="checkbox"/> 家族と災害時の行動(安否確認等)を話し合う	<input type="checkbox"/> 家庭の安全対策を考える	<input type="checkbox"/> 災害状況をイメージトレーニングする <input type="checkbox"/> 避難所運営をシミュレーションする
行動	<input type="checkbox"/> 紙食器、紙スリッパ等をつくってみる <input type="checkbox"/> 携帯トイレや応急トイレ(新聞紙・ビニール袋を使う)の使い方を知る		<input type="checkbox"/> 少量の水での調理(エコ・クッキング)	

▶ 地域防災教育実践のスタートアップ例

意識啓発～実践に至る流れ

ハードルが低く多数が参加できるイベントをきっかけに、関心・意欲のある方が実践するために必要な知識・技能を伝え、指導にあたってもらう

防災講話/訓練

- ・ 目的の共有、理解
- ・ 関係者の意識啓発
- ・ 地域,学校全体で

準備段階

指導者研修

- ・ 目標の共有、理解
- ・ 手段の習得、訓練
- ・ 関係地域,学年毎に

準備・実行段階

防災教育の実践

- ・ 学習者への実践
- ・ 目標達成の評価検証
- ・ 次年度、次回へ

実行・継続段階

事例) 家庭内の危険箇所を確認する

- 1 写真や絵を切り、担当か所に写真や絵を貼りつける。(掲示物を作るのできれいに)
- 2 危険な場所に赤のふせんにX印をつけ、どんな点が危険だと思うかをふせんに書き込む。
- 3 安全だと思う場所に青のふせんにO印をつけ、なぜそう思うかをふせんに書き込む。
- 4 黄色のふせんにX印の内容を書き出し、対策を考える。班内で危険か所や対策を話し合う。 → 班ごとに改善策を発表する。

勇気をだして、話をしよう
東京都いじま110番 0120-211-380

勇気をだして、話をしよう
東京都いじま110番 0120-211-380

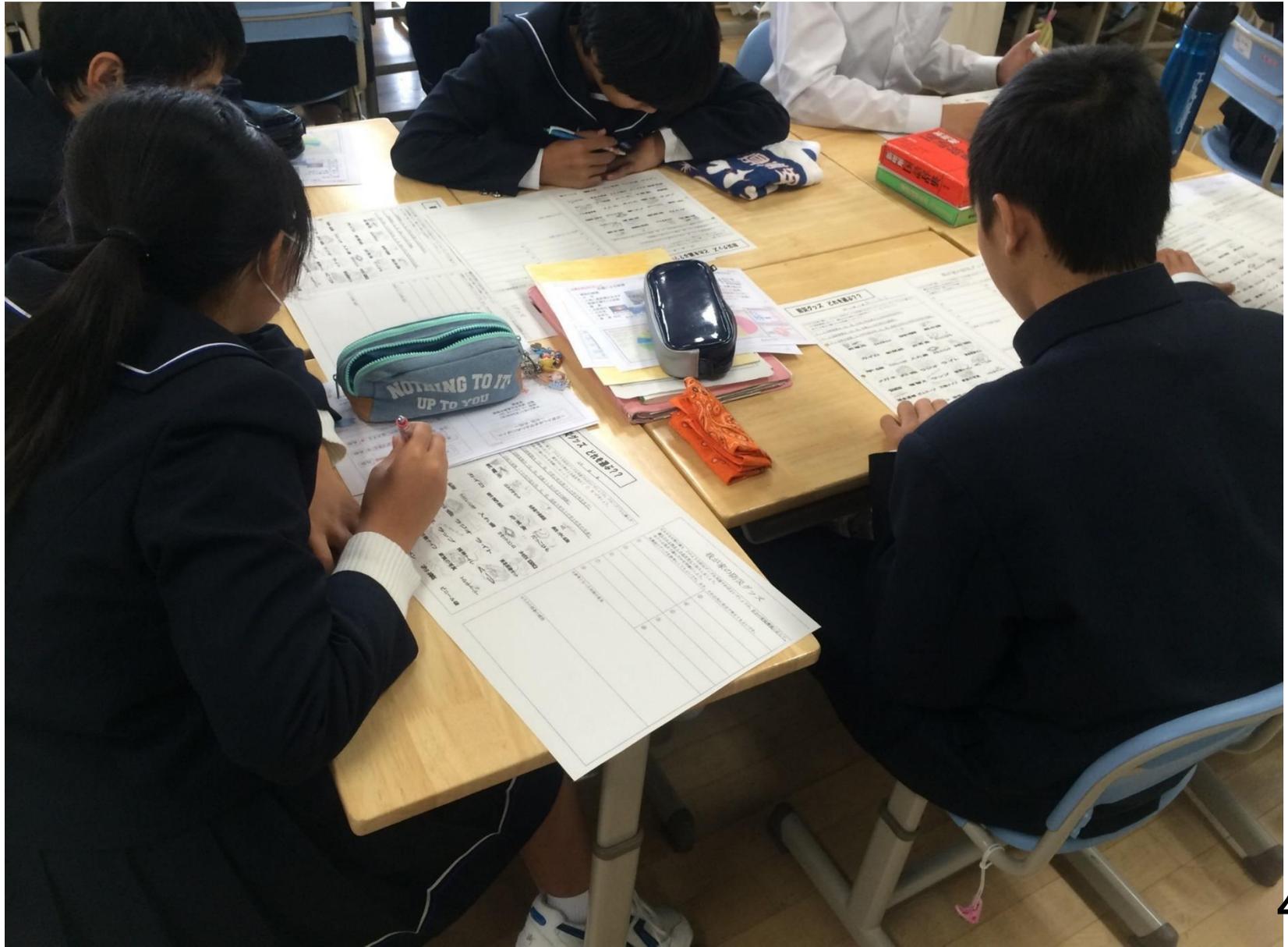
勇気をだして、話をしよう
東京都いじま110番 0120-211-380

みんな仲良くやさい
東京都いじま110番 0120-211-380

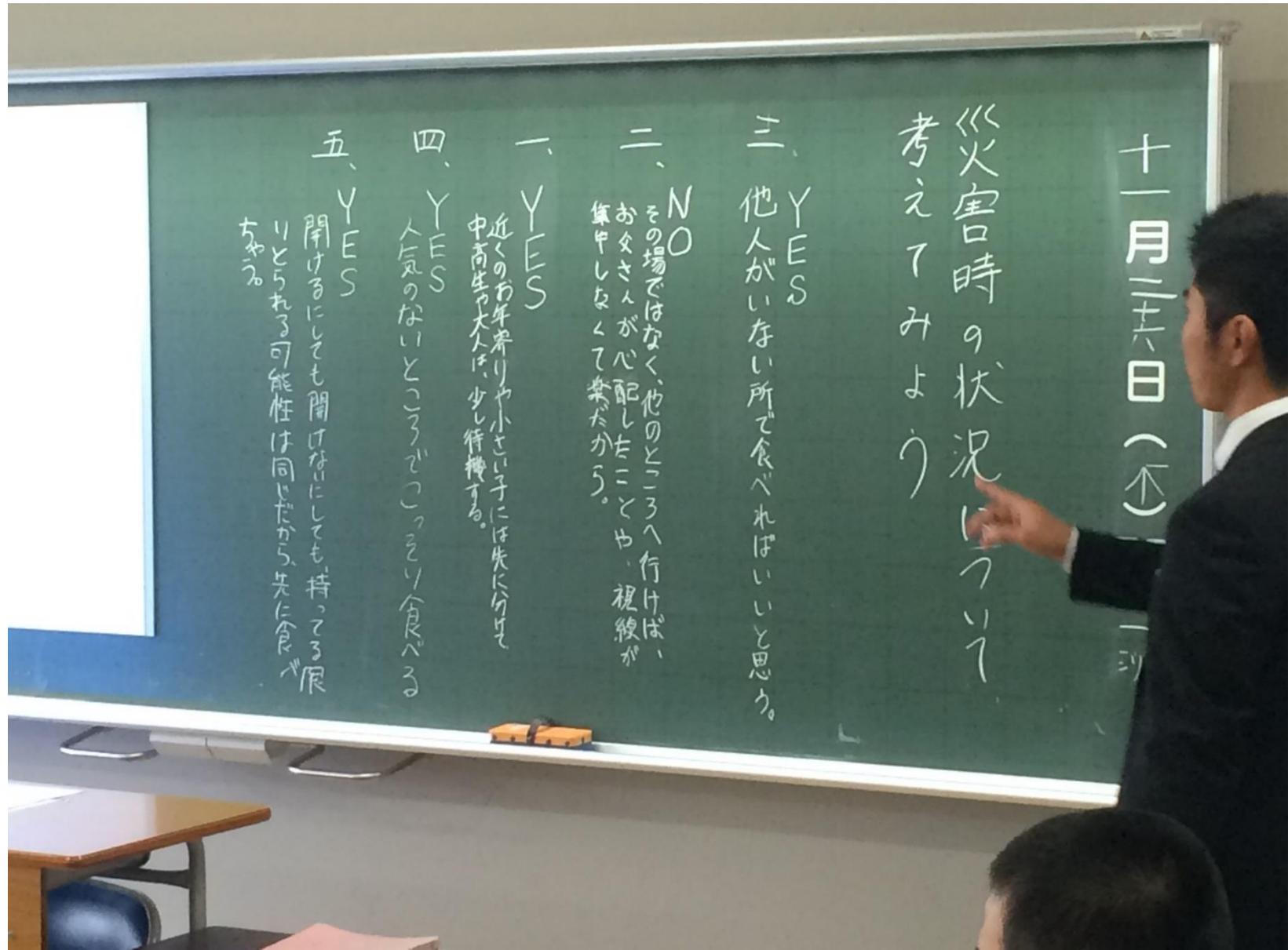
▶ 事例) 家庭内の危険箇所を確認する



事例) 家族構成に合わせた備蓄品



▶ 事例) 災害時のコミュニケーション



十一月二十六日(木)

災害時の状況について
考えてみよう

三、YES
他人がいない所で食べればいいと思う。

二、NO
その場ではなく、他のところへ行けば、
お父さんが心配したことや、視線が
集まらなくて楽だから。

一、YES
近くのお年寄りや小さい子には失にけりて
中高生や大人は、少し待機する。

四、YES
人気がないところでつつき、その食糧を
食べる

五、YES
開けるにしても開けずにしても、持っている限
りとられる可能性は同じだから、先に食べ
たがる



事例) 教科横断型の防災教育



平成28年度 新庄地震学の取り組み

NO	教科	テーマ	備考
1	国語	防災標語	「防災標語」を募集、審査し、優秀作品を表彰する。
2	社会	津波を伝える石碑巡り	新庄にある津波被害を伝える石碑を調べ、過去の被害を知る。また、過去の被害から防災について考える。
3	数学	防災意識調査・防災凧製作	新庄地域に住んでいる方の防災への意識調査を行い、傾向と対策を考える。また、防災凧で小学生と交流する。
4	理科	新庄中学校のライフライン調査	中学校に設置されている太陽光発電やプールの水ろ過装置の調査、ガスが止まったときのためにロケットストーブを製作。
5	英語	外国人向けの防災パンフレット	このところ急増してきている外国人観光客に向けたわかりやすい防災ガイドブックを作り、配布する。
6	美術	防災カレンダーの制作	地震学カレンダーを作成し、地震や津波の危機管理対応について紹介、本校「新庄地震学」の取り組みをまとめる。
7	家庭	防災紙芝居・災害用ウォールポケット制作	幼稚園・小学生低学年向けの、防災紙芝居を制作する。また、災害用のウォールポケットを制作し、地域の方にプレゼントする。
8	技術	防災ラジオドラマ	南海地震が発生したら、私たちはどう行動すればよいのか。中学生、地域住民、救助者の視点で防災ラジオドラマの制作に挑戦。
9	保体	災害時のスーパーレスキュー隊	止血・心臓マッサージ・人工呼吸などの救命救急、担架づくり、消火、避難者誘導など、災害時のレスキュー隊を編成する。
10	音楽	歌とダンスの防災教育	歌やダンスを用いて、小学校への出前授業をはじめ、多くの人に防災の啓発活動を行う。



▶ 事例) 都立高校初の「防災学」指導項目案



諸事情により現時点では公開できません。今後、指導項目及び指導案等は、順次公開予定です。今しばらくお待ちください。



代表的な防災教育教材・プログラム

**目標や発達段階、環境に
応じた、適切な教材や
プログラムを活用しよう**



▶ 防災教育で役立つ教材、プログラムの例

- ・ 防災教育教材「避難行動訓練EVAG（豪雨災害編）」 [（国土防災技術株式会社）](#)
- ・ 神経衰弱型教材「まちのBOSAIマスター」 [（NPO法人住まいる研究会）](#)
- ・ 災害対応カードゲーム教材「クロスロード」 [（チームクロスロード）](#)
- ・ 防災すごろくゲーム「GURAGURA TOWN」 [（NPO法人プラス・アーツ）](#)
- ・ 防災カードゲーム「なまずの学校」 [（NPO法人プラス・アーツ）](#)
- ・ 防災カードゲーム「シャッフル」 [（NPO法人プラス・アーツ）](#)
- ・ 避難所運営ゲーム「HUG」 [（静岡県）](#)
- ・ 「障害者の災害対策チェックキット」 [（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）](#)
- ・ 災害状況イメージトレーニングツール「目黒巻」 [（東京大学生産技術研究所目黒研究室）](#)
- ・ 災害対応シミュレーションゲーム「ダイレクトロード」 [（神戸市消防局）](#)
- ・ 学校向け教材「うさぎ一家の防災グッズえらび」 [（防災教育普及協会）](#)
- ・ 学校向け教材「災害状況を想像する力を身につけよう」 [（防災教育普及協会）](#)
- ・ 学校向け教材「災害時のコミュニケーションを学ぼう」 [（防災教育普及協会）](#)
- ・ 学校向け教材「災害時のトイレアクションを考えよう」 [（NPO法人日本トイレ研究所）](#)
- ・ 幼児向け防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」 [（一般社団法人日本損害保険協会）](#)
- ・ 小学生向け防災教育プログラム「ぼうさい探検隊」 [（一般社団法人日本損害保険協会）](#)
- ・ 防災教育教材『カードで学ぶ非常持出袋』～大学生が考えた防災教育教材～ [（神戸学院大学）](#)
- ・ iPadを使った防災教育アプリ「スキナのセレク島」シリーズ [（パステルハートプロジェクト）](#)
- ・ [気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨、その時どうする？」](#)
- ・ [日本赤十字社による防災教育用教材、資料等](#)
- ・ [「地域における防災教育の実践に関する手引き」](#)（一般社団法人防災教育普及協会）
- ・ 防災ビンゴ（東京臨海広域防災公園）
- ・ [東京防災及び防災ノート小学校～高校版](#)（東京都）
- ・ 総務省消防庁「チャレンジ！防災48」 など

弊会は記載した全ての教材についてイベント、授業等で実践経験のあるスタッフが指導法やコツをアドバイス致します！

▶ グループ学習型教材の紹介

“型”=教材を活用して負担減

目標・目的、対象者が明確になっていれば、既存の“型”にあてはめ、類似の事例で使われた教材やプログラムを活用することで負担を減らせます。

家族みんなで考えよう！！

★★ うさぎ一家のぼうさいグッズえらび ★★

年 組：なまえ

うさぎ一家は「おとうさん・おめかさん」「おじいちゃん・おばあちゃん」「ぼく（わたし）」と「おめかちゃん」でくまっています。ある日、おとうさんうさぎが「いま、じしんがたいふうがいろいろなところでおきているから、これからやなえて、物が飛ぶぼうさいグッズえらぶようしよう！」と言いました。

おとうさんうさぎは「おじいちゃんにはこれがいいな。おばあちゃんにはこれがいいいけない。おめかさんうさぎも「わたしはこれがいいな。おめかちゃんにはこれがいいかな。」とおとうさんうさぎに相談した。おとうさんうさぎは「おじいちゃんにはこれがいいかな。おばあちゃんにはこれがいいいけない。おめかさんうさぎも「わたしはこれがいいかな。おめかちゃんにはこれがいいかな。」とおとうさんうさぎに相談した。みんなのために、わくわくぼうさいグッズえらんでみよう！

みんなのはなしをきいてみよう。

ぼく・わたしは何をじいさんがしようかな。

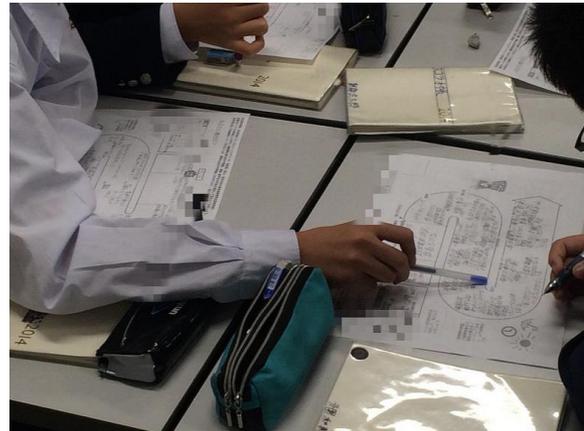
さむいからぼうさいグッズ... ねにのぼうさいグッズがほしいのだけれど、おかし、じしんが起きたときはうさぎが飛んでおかしなことになるよ。うさぎはだいじな。

おめかちゃんのおとうさんうさぎは「おじいちゃんにはこれがいいかな。おばあちゃんにはこれがいいいけない。おめかさんうさぎも「わたしはこれがいいかな。おめかちゃんにはこれがいいかな。」とおとうさんうさぎに相談した。おとうさんうさぎは「おじいちゃんにはこれがいいかな。おばあちゃんにはこれがいいいけない。おめかさんうさぎも「わたしはこれがいいかな。おめかちゃんにはこれがいいかな。」とおとうさんうさぎに相談した。みんなのために、わくわくぼうさいグッズえらんでみよう！

ぼくーうさぎー！ (おとうさんうさぎがきいたのね。おとうさんがきいたのね。)

うらなにつづく！

2014 © Shinya Miyazaki



まず低く



頭を守り



動かない

提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議



ICT機器を用いた防災教育の実践

ICT機器(iPad等)を使った学習

iPadアプリ「まもるリュック」や「スキナのセレク島シリーズ」他、発達障害など配慮が必要な児童生徒、特別支援学校等で活用できます。

iPad用アプリケーション

『まもるリュック』



企画：東京女子大学現代教養学部人間科学科心理学専攻 前川あさ美 先生

iPad版 防災アプリ『まもるリュック』は、発達障がい子どもたちを特に対象として、自分のことに関心をもってもらったり、防災や震災時に必要な知識を身につけたりできるような工夫がなされています。



防災や震災時に必要な情報の種類や物資の特性が、タッチやスクロールをすることで具体的にできます。種類や特性はひとりひとり異なるため、それぞれがカードのタイトルを見ながら、子ども(自分)について考えたり、家族や教員と一緒に何が防災や震災時に必要かを意識して、記入することができます。

東日本大震災の災害発生直後は比較的混乱はなく、「いい子」が多かったが、ライフラインの復旧と共に居場所、物資、情報、障害への知識、人材の不足が子どもと彼らの家族を長期にわたって苦しめた。しかし、そうした中でも、他者と繋がることのできた保護者たちには、「自分の受容」「子どもへの発見」「他者との絆意識」「新しい価値観と感謝」といったポストトラウマティックグロースが見いだされた。子ども(自分)を具体的に知ること、子ども(自分)をありのままに理解してもらうこと、そうしたことが、防災や震災時に生き延びる上で大事な土台になることが見えてきた。こうした調査の結果を踏まえて、子どもが主体的に関わる防災アプリ「まもるリュック」が開発された。

ポケットの内容

- 防災リュック** 「命をまもるため」「気持ちが安心できるため」「一人で室内で時間を過ごすため」「屋外で過ごすため」「自分のことを分かってもらうため」の5つのカードがでできます。カードに記入しながらリュックに実際に入れてみます。重くなりすぎないようにしましょう。
- じぶんのこと** 「自分について」「家族について」「通っている園・学校など」「緊急時の連絡先」「緊急避難場所」のカードがでできます。
- いりようかんけい** 「自分の名前」「保険証番号」「手帳番号」「アレルギー・その他既往歴」「常備薬」「よく行く病院と主治医」のカードがでできます。
- ともだち** ともだちだけでなく、知り合いなどの名前や連絡先などの情報をいれておきます。アイコンには写真や、友だちの好きなイラストなどを入れておくことができます。
- できる・できない** 「パニックになったとき」「お願いしたいこと」「得意なこと」「苦手なこと」「大好きなこと」「特にわかっておいてほしいこと」のカードやチェック項目のカードもでできます。
- フリーポケット** 自由に名称をつけて、自分だけのポケットにすることができます。

初期段階の画面



色指定パレット



様々なタイプのカード記入画面 (サンプル)



学習上の支援機器等教材研究開発支援事業実施機関、女子美術大学を中心とするチームで作成、各アプリケーションは無料でダウンロードできます(AppStoreのみ)。

教材例：映像教材の活用



**ボクは
すぐに逃げたんだ
東日本大震災から学んだこと**

小学校中・高学年向け

DVD
65,000円(学33,000円) +
税

14分・2012年

厚生労働省
社会保障審議会推薦
文部科学省選定
文部科学大臣賞



**どう守る?自分の命
東日本大震災から
教えられたこと**

小学校中・高学年向け

DVD
65,000円(学33,000円) +
税

22分・2012年

厚生労働省
社会保障審議会推薦
文部科学省選定
2012年教育映像祭優秀作品賞



**生きる行動 生きる備え
東日本大震災の教訓**

中学生・高校生向け

DVD
65,000円(学33,000円) +
税

22分・2012年

厚生労働省
社会保障審議会推薦
文部科学省選定
2012年教育映像祭優秀作品賞

文科省選定作品
教育委員会、
各種ライブラリ等
でレンタル可能

▶ 手段としての指導案・教材と展開例

「～手引き」の教材を活用

「地域における防災教育の実践に関する手引き」参考資料4-5には、様々な防災教育教材や訓練プログラムが掲載されています。ご活用ください。

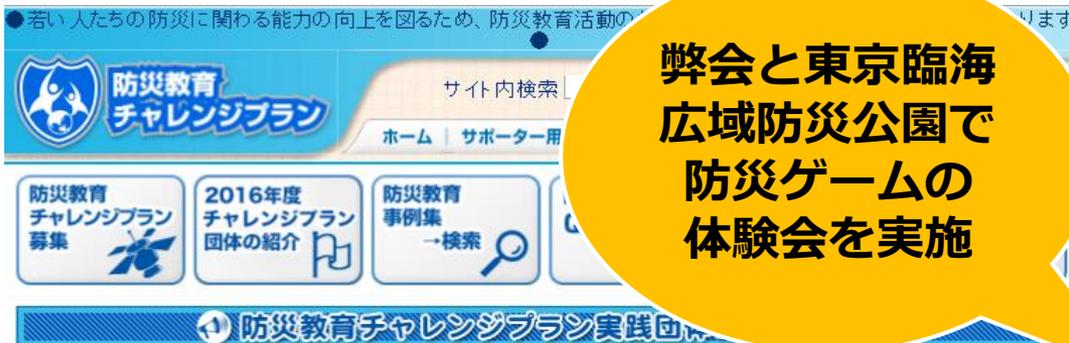
参考-4：一工夫を加えた防災教育コンテンツの例

種別	名称（五十音順）	問合せ先など
ゲーム	クロスロード	チームクロスロード http://maechan.net/crossroad/toukou.html
	災害情報＆コミュニケーション演習（DICE-ディスプレイ）	災害救援ボランティア推進委員会 http://www.saga.or.jp/info/2014/0815104354.html
	なまぎの学校	NPO 法人プラス・アーツ http://www.plusarts.net/
	ぼらさいグッズ	一般社団法人日本 損害保険協会 http://www.sonpo.or.jp/archive/publish/educatio/0008.html
防災学習用アプリ	帰宅支援マップサービス	株式会社パスコ https://www2.kilakumap.com/
	そなえもん	岐阜県 http://www.pref.gifu.lg.jp/kenseifune/kochi-kocho/event-calendar/sonota/oho-sangyo/sonaemon.html
	津波 AR アプリ	宮城教育大学・東北大学 http://www.miyako-u.ac.jp/new/s/general/ar.html
	天サイ！まなぶくん	東京大学・株式会社キャドセンター http://www.cadcenter.co.jp/camp/ARscope.html
その他教材	100ドル避難増強	東京大学学生技術研究所 自衛研究室 http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/trp/top.html
	安否札	-
	らさぎ一家のぼらさいグッズえらび	災害救援ボランティア推進委員会 http://www.saga.or.jp/info/2014/0529161411.html
	家具固定	東京消防庁など http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousai/kaguten/handbook/
	劇・寸劇	-
	災害用トイレガイド	NPO 法人日本トイレ研究所 http://www.toilet.or.jp/toilet/guide/index.html
	がるる	名古屋大学権和研究室 http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/lab/FT/buru/index.htm
	防災紙芝居	新着消防庁など http://www.fdma.go.jp/syobodan/bousai/
	防災カレタ	消防防災博物館など http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index5.cgi?ac=P205&Page=hp5_5tmp
	防災教育英辞 50選	EDUPEDIA https://edupedia.jp/articles/keyword/53233f7d059b682d585b4cd0
	防災教育用リーフレット	NPO 法人さくらネット http://www.npo-sakura.net/disaster.php
防災ずきん	-	
自衛巻き	東京大学学生技術研究所 自衛研究室 http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/meguro/mak/meguro_maki.pdf	
わらべ唄・音楽	-	

参考-5：防災訓練の例

名称（五十音順）	概要	問合せ先など
イゼ！カエルキャラバン！	おもちゃの物々交換プログラム「かえっこバザール」のシステムをベースに、そのなかで展開される「体験コーナー」をゲーム感覚あふれる「消火」、「救出」、「救護」などの防災訓練にすることで、参加者たちは楽しみながら防災の「知恵」や「技」を学べるようになっていきます。	NPO 法人プラス・アーツ http://www.plusarts.net/?p=15458
シェイクアウト訓練	地震の揺れから身を守る安全行動（まず低く、頭を守り、動かない）を共通訓練として、決められた日時に、そのときいる場所でいっせいに実施します。	日本シェイクアウト提唱会議 http://www.shakeout.jp/
着衣泳	水難事故から身を守ることを目的に、着衣状態で水に浮いたり、浮きながら移動する訓練を行います。	水難学会 http://wr.umin.jp/
DIK（災害図上訓練）	参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。	常葉大学 社会環境学部 http://www.tokoha-u.ac.jp/department/social/index.html
HUG（避難所運営訓練）	避難所の運営をしなければならない立場になったときを想定し、避難所で起こる様々な出来事に対応していくかを模擬体験するゲームです。	静岡県 http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/seibu/hug/index.html
防災運動会	バケツリレーや担架運びなど、防災の要素を取り入れた運動会です。	-
防災キャンプ	水道や電気、ガスなどのライフラインがストップした避難所生活を想定し、野外生活などを体験する訓練です。	文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken.htm

▶ 防災教育実践例、教材の体験・紹介



弊会と東京臨海
広域防災公園で
防災ゲームの
体験会を実施

(4)防災ビンゴ

(指導：防災教育普及協会)

自分が必要だと思う防災グッズを記入し、ビンゴゲームでチェックします。防災グッズには様々な種類がありますが「自分が必要だと思う防災グッズ」を考
えることが、効果的な備えにつながります。参加者は小さな子どもさんから大
人まで、自分や家庭に必要な防災グッズについて楽しみながら学びました。



昨年度、受賞団体をピックアップ！

【防災教育大賞】
香川県立盲学校
発表資料 | 報告書

【防災教育優秀賞】
埼玉県立日高特別支援学校
発表資料 | 報告書



防災教育チャレンジ
プランホームページ
で優秀事例
について公開中

(5)学校向け防災ゲーム紹介

(指導：防災教育普及協会)

学校向けには様々な教材、ゲームが開発されています。一般社団法人日本損害
保険協会による「防災ダック(=災害等発生時の安全行動を学ぶ)」や「ぼう
さい探検隊(=小学生向け防災マップづくりプログラム)」や、NPO法人日
本トイレ研究所による「災害時のトイレアクションを学ぼう!」、国立障害者
リハビリテーションセンター研究所による「障害者の災害対策チェックキ
ット」など、幅広い発達段階や特徴に合わせた防災を学べる教材を紹介しま
した。



▶ 防災ゲームDay2017inそなエリア東京



2017年7月2日（日）終日

**東京臨海広域防災公園 そなエリア東京にて開催予定！
出展・発表等を募集します。ぜひご参加ください。**

ご参加いただきありがとうございました
皆様のご活躍を心より祈念申し上げます



<http://www.bousai-edu.jp/>



▶ 防災教育コーディネーターとしての“心の声”

- 具体的な**防災教育がはじめてで不安もある**はず。他校での事例や成果が明らかな、安定感のあるプログラムを考えようかな。
- メインテーマが「**共に生きる**」なので、地域で生きる人や家族・友だちなど、**他者に目線や思考を向けられる**ような工夫が必要だろう。
- 授業参観はあまり気にしない。**主役はあくまで生徒**。保護者は生徒の姿を見守り、家庭で話題にあがるくらいでいい。強制はトラブルのもと。
- 家庭連携や訓練、調べ学習につなげたいなど、**要望が多いのは熱心さの証**。面倒だと思っていたらこんな要望は出してこない。2コマのうち1コマは先生が指導していることから、**先生のやる気を活かす内容を提案**したい。詳細な指導案を出して背中を押せばいけるか!? あまり**出しゃばらないほうが今後のため**。
- 訓練や調べ学習は学びを深める絶好の機会。やる気が感じられる。**地域に生きる人の多様性に視点や思考が向けば、訓練や調べ学習のテーマにつながる**だろう。
- 地震から身を守った後のことで、かつ多様性を意識できるテーマで、かつ**小学生にもできる**ことがあるのは…「災害時のトイレ」だろう。

▶ 防災学習プログラムづくり提案資料

前ページのラフ案の表面です。こちらでプログラム案を作成しています。

筆者は防災教育で「何が必要か」よりも「この環境で何ができるか、何が求められるか」を先に考えます。本件は先生・管理職からの要望がいろいろとありますので、その要望に応えられる内容であることが大前提だと考えます。

「実際に必要なこと」や「大切なこと」はいろいろあるのは分かりますが、コーディネーターに求められるのは理想論を押し付けることではなく、現実的で無理のない、調整・提案だと思えます。

今回は「災害時のトイレ」で地域多様性（共に生きる）、家庭連携、避難訓練や調べ学習への展開という要望をクリアする内容を提案してみます。

グループワークメモ〜プログラム開発

※ 地域の中向 自由
※ 地域にいる様々な人々

本時の目標 (子どもたちに持ってほしい言葉・感じてほしいこと)	・生きることにはトイレが大切だということを知ること ・困ったときに、自分でもできることを考えること ・困ったときに、困った人のために、困った人を助けること		
本時のねらい (この企画の意図)	・地域から命を守る方法を学ぶこと ・自分の生活を守る方法を学ぶこと ・地域で暮らす人々のために、困った人を助ける方法を学ぶこと		
授業の全体計画 (活用する教育資源、どのような授業にするかの概要)	・地域の防災(災害時のトイレ)について学ぶこと ・自分の生活を守る方法を学ぶこと ・困ったときに、困った人を助ける方法を学ぶこと		
授業の展開			
時間	概要(教員、児童・生徒の動き)	児童・生徒の感想や気づき	使用するもの・留意点
導入 5分	・導入テーマを明示する。 ・「トイレ」について、地域で暮らす人々のために、困った人を助ける方法を学ぶこと	・テーマの理解 ・テーマの理解、意識 ・自分の生活を守る方法を学ぶこと	・事前に列を付ける。 ・ワークシートを配る。 ・先生に話を聞くこと
展開 30分 20分	・ワークシートの内容を説明する。 ・1人1人進んで、1人1人進んで、1人1人進んで	・自分の生活を守る方法を学ぶこと ・困ったときに、困った人を助ける方法を学ぶこと	・実際に生きること ・地域で暮らす人々のために、困った人を助ける方法を学ぶこと
10分	・1人1人進んで、1人1人進んで、1人1人進んで	・自分の生活を守る方法を学ぶこと ・困ったときに、困った人を助ける方法を学ぶこと	
10分	・1人1人の進んで、1人1人進んで、1人1人進んで	・自分の生活を守る方法を学ぶこと ・困ったときに、困った人を助ける方法を学ぶこと	
10分	・1人1人の進んで、1人1人進んで、1人1人進んで	・自分の生活を守る方法を学ぶこと ・困ったときに、困った人を助ける方法を学ぶこと	・自分の生活を守る方法を学ぶこと ・困ったときに、困った人を助ける方法を学ぶこと
まとめ 5分	・1人1人の進んで、1人1人進んで、1人1人進んで	・自分の生活を守る方法を学ぶこと ・困ったときに、困った人を助ける方法を学ぶこと	

▶ ワークショップのようす



▶ 防災学習プログラムづくり発表用資料

「く」災害時のトイレアクション

本時の目標 地域で生きる様々な人たちの「トイレ」のために、自分でできることを考えよう!!

ねらい 生命を守る地震防災教育を受け、生活を守る防災教育へ。

全体計画

Point! 地域に様々な人たちがいるよ!!

- おなかの大きいお母さん、赤ちゃん
- 車いすの人、おじいちゃん、おばあちゃん
- 日本語がわからない人
- ペットと生活する人

導入 5分

展開 35分

※仮設トイレの字書やクイズカードを使用する。

まとめ 5分

家庭との連携へ

目標の提示 何のために、何を? 「災害時のトイレのために、自分でできること。」

注意の呼びかけ 体験談、中絶の仮設トイレ、クイズ?

方法の提示 クイズの記入方法

実施・表現 班の中で発表

成果の検証 シート係提出

→ 「共に(地域で)生きる」ことの理解
地域の中、小学生の力を検証する

→ 中絶の事例を使えば先生でできています!!

テーマを明示し、目標を明確化。
体験談で注意をひく。 「おんがはつが」
地域の多様性気付く。

Point の人たちが「仮設トイレで困ること」について、話し合う。

→ 周りに対して、自分たちには何ができて、何ができなかったのかについて話し合う。 (おんがはつが) 中絶の事例

1班1つの**Point**について発表する。

地域の人の多様性について、**Point**の人たちは、家庭の中の多様性も検証。 (おんがはつが) 中絶の事例

避難訓練、防災学習への動機付け 中絶の事例?

クイズの回収、検証、フィードバック。

クイズの生徒はできています!! 中絶の事例の回収

災害時のトイレアクションは、NPO法人日本トイレ研究所が作成したプログラムですが、それを本件用にアレンジしたものになります。詳しくは弊会ホームページをご覧ください (文末URL)。

トイレは誰にでも関わる問題であることから、地域の多様性 (共に生きる) ことにつながります。避難訓練ではこうした多様な人たちのことを意識して、教員が車イスを使ったり高齢者に扮して生徒に避難支援してもらうのもよいですね。調べ学習ではトイレや要配慮者をテーマに入れられるでしょう。

なお家庭との連携は慎重に行います。「家族と話そう」などを強制することは避けたほうが良いですし、現場の先生からしても調整が大変でしょう。今回は授業参観ですからむしろ保護者に「児童が一生懸命考えて学ぼうとしている」姿勢を見せてあげることが何よりだと思います。「ご家庭でもトイレについて考えてください」と添えるくらいで充分です。

<http://www.bousai-edu.jp/info/kyouzai-toire/>

ご覧いただきありがとうございます

- 本資料は2016年度中越防災安全推進機構主催「防災教育コーディネーター養成塾」第2回で使用した講義スライドを公開用に編集したものです。
- 本資料に記載の内容は、筆者の個人的な見解であり、組織の意見を代表するものではありません。
- 本資料に記載の内容の転載、再配布は使用者の責任において行ってください。
- 講義スライドの内容を補足するための「講義メモ」も公開しています。講義スライドだけでは内容を理解することが難しいため、講義メモも併せてダウンロードしてご確認いただくことをお勧めします。
- その他、ご不明な点やご要望、詳細な解説が必要な場合は『防災教育普及協会』にお問い合わせください。